

令和元年度 長野北幼稚園 「園の自己評価」

1 園の教育目標

(1) じょうぶな体の子 (2) やさしい心の子 (3) 心ゆたかなかしこい子

2 令和元年度の重点目標

共に遊び、共に学び「できた」「つくれた」「わかった」がいっぱいの子ども

- (1) よく遊びよく食べる丈夫な体の子
 (2) 友だちとなかよくできるやさしい子
 (3) 好奇心いっばいに生活し、気づき、考え、表現する子

3 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	AB
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	B
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	B
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	A
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	B
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	AB
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	AB
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	A
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	B
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	B

4 本年度の取り組み及び来年度への方向

- (1) 「園運営」については、少人数でアットホームな本園の特性を生かし、臨機応変できめ細かな対応を心掛けた。また、保護者の温かな理解と協力もあり、園運営全体をスムーズに行うことができた。
- (2) 発達段階に応じたさまざまな体験的な活動をすすめてきたが、更に重点目標を絞り込み（自然体験・交流の充実等）、園全体として共通理解を図って取り組むようにしたい。合わせて情報発信も丁寧に行い、保護者の理解を得ながら進めていきたい。
- (3) 若槻小学校5年生と年長児との交流が新たに始められた。幼稚園と小学校との連携を深めることにより、小1ギャップ対応が多少なりとも前進することができた。また、今年度のリンゴ狩りを「ケアハウスレインボーわかつき」で実施した。今後も、地域交流をさらにすすめていきたい。
- (4) 「園の教育環境」については、施設・設備の老朽化に伴い安全面や衛生面での課題が多い。より安全で快適な園生活が送れるように、信学会事務局への要望を継続していきたい。
- (5) みどりの広場に仮設住宅（2年間予定）が設置されたことにより、運動会をはじめ様々な活動が制限される。活動場所や内容を見直し、早めに計画を立てて見直しをもって実施していきたい。